

精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討状況について

1 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムとは

精神障がい者が地域の一員として、安心して自分らしい暮らしができるよう、①医療、②障がい福祉・介護、③住まい、④社会参加（就労）、⑤地域の助け合い・教育（普及啓発）、⑥保健・予防の各分野が包括的に確保されたシステムであり、国は、「入院医療中心から地域生活中心へ」の理念を支えるため、自治体ごとの整備を求めています。

区においては、令和2年度に、第5期障がい福祉計画の目標として位置付けた「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築検討会（以下、「検討会」という。）」を設置し、令和3年度を始期とする「板橋区障がい者計画2023」において、システム構築に向けた検討・整備を進めることとしています。

このような背景を踏まえ、システムの構築に向け、保健・福祉・医療実務に携わる関係者が集まる検討会を活用し、地域課題の検証を行っています。

2 参加機関

No.	区分	参加機関
1	医療機関	愛誠病院
2	医療機関	東京武蔵野病院
3	医療機関	成増厚生病院
4	訪問看護事業所	はすめま訪問看護リハステーション
5	地域移行支援事業所	スペースピア
6	地域移行支援事業所	フェリシダ
7	計画相談支援事業所	サンライズ高島平
8	地域移行コーディネーター	一般社団法人ソラディオ 相談支援センターあらかわ
9	東京都	精神保健福祉センター
10	基幹相談支援センター	障がい者福祉センター
11	行政	予防対策課
12	行政	板橋・上板橋・志村・赤塚・高島平 各健康福祉センター
13	行政	板橋・志村・赤塚 各福祉事務所
14	行政	障がい政策課
15	行政	障がいサービス課

※検討内容に応じて参加者は適宜調整しています。

3 検討会のスケジュールについて

新型コロナウイルスの影響により、検討会の中止や延期が複数回生じた影響で、検討会の開催間隔は不定期となりましたが、下表のとおりです。

年度	開催回	開催月	検討分野	実施状況
令和3	第1回	5月	①医療 ②障がい福祉・介護	書面会議
	第2回	9月	①医療 ②障がい福祉・介護	書面会議
	第3回	11月	①医療 ②障がい福祉・介護	対面式会議
令和4	第1回	8月	①医療 ②障がい福祉・介護	書面会議
	第2回	12月	①医療 ②障がい福祉・介護	対面式会議
	第3回	2月	③住まい【予定】	
令和5	第1回	5月頃	③住まい ④社会参加（就労）【予定】	

4 令和3年度までの検討経過について（前回報告内容）

令和3年度までの検討で、地域移行支援、地域定着支援に関わる支援者の共通理解のもと、連携が図っていけるよう各支援機関の役割を整理し、関係機関が地域移行を進めるうえで参考となる視点を踏まえた支援者向けリーフレットを作成していくこととしました。また、入院患者の地域移行の理解につなげ、地域移行に結びつきやすくなるよう、入院患者向けのチラシも作成していくこととしました。

5 令和4年度以降の検討会の進捗について

第1回【書面開催】 8月8日（月）～8月31日（水）

参加機関から、作成したリーフレットとチラシの案に対する意見を募った。

- ・記載内容に関する指摘⇒指摘内容に応じて修正
- ・チラシの配布は、各医療機関へ郵送するのではなく、患者への手渡し等により区が退院を支援しているという姿勢が伝わる手段を取ることが望ましい。
- ・チラシ配布後の反応を見込んで、次の方策も考えておく必要があるのでは。
- ・医療機関等も含めて事例検討会を行ってみては。
- ・地域移行支援の一連の流れを動画で見られると、動機付け支援に繋がるのでは。
- ・各相談窓口が各々の役割を認識し、相談内容に応じて地域の事業者と連携して行政と住民が協働で対応していける体制（仕組み）ができ、浸透していくと良い。

・・・など

第2回【対面式開催】 12月14日（水）

- ・リーフレットとチラシの記載内容の検討を終了、完成とした。
- ・入院患者が地域移行支援を利用開始するタイミングが悩ましい。6か月間利用でき、更新は1回までなので、その1年間で退院に繋がるかどうか不安な場合もある。
 - ⇒区の各相談窓口での相談は無期限なので、まずは地域移行支援の利用前に各相談窓口に相談してもらえれば、必要に応じて各相談窓口同士でも連携し、退院に向けたスムーズな支援を行う体制をとりたい。
- ・リーフレットとチラシの配布について、医療機関や入院患者へ手渡しで説明することが重要だと思う。区との繋がりや、自分の退院を応援してくれる人がいるんだと感じられる方法でお願いしたい。
 - ⇒まずは医療機関のスタッフへの配布・説明が必要となる。新型コロナの影響で患者との接触は難しいが、医療機関へ訪問してスタッフへ配布・説明することを検討する。
- ・医療機関で行っている作業療法の時間に、入院患者へチラシを配布して外部の人から説明してもらうと、いい刺激になると思う。
 - ⇒新型コロナの影響で患者との接触は難しいが、今後の課題として検討する。
- ・長期入院患者は、この文字量のチラシを読んで理解することが難しい場合もあるが、地域移行支援等の制度を区から入院患者へ説明してもらう場がほしい。
 - ⇒新型コロナの影響で患者との接触は難しいが、今後の課題として検討する。
- ・①医療、②障がい福祉・介護分野の検討課題はまだあるが、包括的なケアシステム構築には他分野の課題を検討することも必要であるため、次回より課題を③住まい及び④社会参加（就労）に切り替えたい。
 - ⇒③住まいでは、板橋区居住支援協議会より精神障がい者への居住支援制度を紹介してもらい、居住支援における課題や困りごとの共有を図ることから始める。
 - ⇒④社会参加（就労）では、板橋区障がい者就労支援センター（ハート・ワーク）や障害者就業・生活支援センターより、精神障がい者への就労支援制度を紹介してもらい、就労支援における課題や困りごとの共有を図ることから始める。

第2回検討会終了後の決定事項

リーフレット・チラシの配布方法

障がい政策課、予防対策課、障がい者福祉センターの職員が、区内医療機関を訪問しスタッフへ配布・説明を行う。配布時、各医療機関の現状や退院支援における困りごと等をヒアリングし、今後の検討課題とする。

【配布先】健康長寿医療センター、豊島病院、日大板橋病院、帝京大学病院、愛誠病院、飯沼病院、東京武蔵野病院、成増厚生病院

第3回【対面式開催】 2月21日（火）

板橋区居住支援協議会が行っている精神障がい者への居住支援制度の紹介、居住支援における課題や困りごとの共有を行う予定。

6 今後の検討予定

令和5年度の検討会は、③住まいに加え、④社会参加（就労）の課題検討を行っていく予定です。

③住まいの課題	④社会参加（就労）の課題
<ul style="list-style-type: none">・居住支援法人等の連携など支援策の検討・居住中の支援策の向上・居住中の支援策の周知・体験型グループホームの整備・住宅管理組合等への障がい知識啓発、トラブル時の調整方法の検討	<ul style="list-style-type: none">・地域における居場所づくり・就労支援の制度がわかりづらい・就労マッチングに向けた支援施設の体験サポートの仕組みづくり・就労支援機関の連携による窓口の簡素化・関係機関の連携による好事例の共有・企業の雇用に対するニーズ把握、企業向けの障がい理解啓発

③住まい、④社会参加（就労）の課題検討後は、⑤地域の助け合い・教育（普及啓発）、⑥保健・予防分野の課題を検討する予定です。今後も、検討会での協議を経たものは自立支援協議会、相談支援部会に報告を行っていきます。